

図書館で“キャリア”を考えよう 「経営者の本」を読む

第三弾 「ベンチャー精神」に学ぶ

ご利益1

「金儲け」は必ずしも第一目的でないことがわかる！

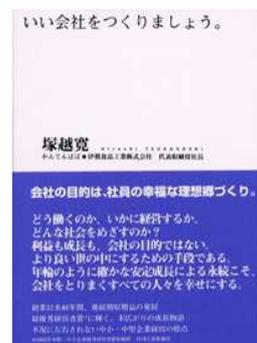
ヤマト運輸創業者で宅配便サービスの生みの親でもある小倉昌男氏は、企業化を目指す若い人々に対して、「ベンチャーで成功するしないは、大したことはありません。成功して得られるお金なんて儂いものです。それよりも、成功するために必死に勉強したり、努力したりすることの方が大事。だから、若い人は高い志を持って、一生懸命に努力してほしい」と述べています。



ご利益2

創業後50年間、増収増益企業の経営の秘訣がわかる！

長野県伊那市にある伊那食品工業(株)は1958年の創業以来約50年間、一度も売上高や利益が前の年を下回ったことがありません。この会社の創業者である塚越寛氏は、その著書『いい会社をつくりましょう』のなかで、社員とともに苦勞する日々を振り返り、「会社は、経営者のために存在するのではなく、一緒に苦勞をしてくれた仲間たち全員のものだ。会社は社員の苦勞に報いるために、発展し、利益を生まなければならない。会社の発展を通して、社員がみな、幸せになり、社員の幸せを通して社会に貢献するべきだ」という私の考え方ができあがった、と述べています。



ご利益3

この春、仕事と人生について考えてみる！

「好きなこと、やりたいことを仕事にしたい」と希望する人はたくさんいますが、なかなかうまくはいかないものです。自分の意思で、自分の考える仕事を実践した起業家ですら、思うとりの仕事ができずに苦勞します。それでも、その苦勞のなかから、仕事の喜びと生きがいを見つけ出しているのです。起業家になるかどうかは別にしても、これからの自分の人生を考えてみるために、ベンチャー経営者の言葉は参考になると思います。

そこで

「ベンチャー精神に学ぶ」コーナーを設置しました！

このチラシの裏面には、本学図書館に所蔵されているベンチャー精神に富む経営者の著書リストを掲載してあります。また、通常外部書庫に別置されていて取り寄せに時間のかかる本も、期間限定で本館3Fレファレンスカウンター横の書棚に置いてあります。この機会にぜひ手にとってご覧ください。